

〈出品目録〉

No.	作 家 名	作 品 名	制作年	技法・材質	寸 法 (縦×横cm)
【第1章 バルビゾン派からテルヴェーレン派へ：印象派の起源】					
1	ジャン＝バティスト＝カミユー・コロー	海	1822年	油彩・キャンヴァスに裏打ちされた紙	23.5×31
2	ジャン＝バティスト＝カミユー・コロー	セーヴルの高地、囲いのある牧草地	1865－70年	油彩・キャンヴァス	53×100.5
3	ジャン＝バティスト＝カミユー・コロー	ファンブー沼の思い出、夜明け	1871年	油彩・キャンヴァス	56×46.5
4	テオドール・ルソー	森のはずれ	不詳	油彩・カルトン	32×48
5	テオドール・ルソー	ベルヴェーのテラスからみたパリ	1833年	油彩・キャンヴァス	61×115
6	カミユー・ヴァン・カンブ	バルビゾンの風景	1859年頃	油彩・キャンヴァス	57×31.9
7	カミユー・ヴァン・カンブ	フォンテーヌブローの森、カバの岩	1859年	油彩・キャンヴァス	37.5×45.4
8	イッポリート・ブーランジェ	ディナンの眺め	1870年	油彩・キャンヴァス	91×130
9	イッポリート・ブーランジェ	聖ユベールのミサ	1871年	油彩・キャンヴァス	114×134
10	イッポリート・ブーランジェ	洪水	1871年	油彩・キャンヴァス	102×144
11	アンリ・ド・ブラーケレル	赤い服	不詳	油彩・キャンヴァス	37×54
12	アンリ・ド・ブラーケレル	アントウェルペンの水場の内部	1883年頃	油彩・キャンヴァス	72.5×91
【第2章 ベルギーのレアリズムから印象派へ】					
13	ギュスターヴ・クールベ	スペインの踊り子、アデーラ・ゲレーロ夫人	1851年	油彩・キャンヴァス	158×158
14	ギュスターヴ・クールベ	オルナンの風景	1855年頃	油彩・キャンヴァス	42×55.5
15	ギュスターヴ・クールベ	鹿の隠れ場所、プレジール＝フォンテーヌの小川	1866年	油彩・キャンヴァス	46×61
16	イジドール・ヴェルヘイデン	死んだ鹿	1885年頃	油彩・キャンヴァス	135.5×91.5
17	ルイ・アルタン・ド・サン＝マルタン	レスコー川	1873年	油彩・キャンヴァス	50×100
18	ルイ・デュボワ	ベーズの高地	1861年	油彩・キャンヴァス	91×140
19	コンスタンタン・ムーニエ	ボリナージュ風景／ボリナージュ地方の工業地帯	不詳	油彩・キャンヴァス	69.8×103
20	マクシミリアン・リュス	サンブル河岸	1896年	油彩・キャンヴァス	69.8×91.4
21	アルフレッド・クリュイスナー	若い女の肖像	1857年	油彩・キャンヴァス	55.5×44.7
22	アルフレッド・ステヴァンス	外出の身支度	不詳	油彩・キャンヴァス	46×33
23	フェルナン・クノップフ	ヴァン・デル・ヘクト嬢の肖像	1883年	油彩・キャンヴァス	37×29
24	フェルナン・クノップフ	フォッセ、モミの木の林	1894年	油彩・キャンヴァス	66.5×45.2
25	フェリシアン・ロップス	浜辺	1878年頃	油彩・キャンヴァス	41×58.5
26	イジドール・ヴェルヘイデン	春の果樹園	1878年	油彩・キャンヴァス	76×122
27	ジャン＝バティスト・ディグリーフ	二つの積みわら	1875年	油彩・キャンヴァス	41×60.5
【第3章 フランスの印象派と純粋な色彩】					
28	ピエール＝オーギュスト・ルノワール	風景	不詳	油彩・キャンヴァス	18×27.6
29	アルフレッド・シスレー	ルーヴシエンヌの道	1873－74年	油彩・キャンヴァス	46.5×56.5
30	アルフレッド・シスレー	森のはずれ、春	1885年	油彩・キャンヴァス	53×72
31	ポール・ゴーギャン	野原での語り、ポン＝タヴァン	1888年	油彩・キャンヴァス	92.5×73
32	アルマン・ギョーマン	セイヨウヒイラギガシ、朝	1892年	油彩・キャンヴァス	65×81
33	ギョーム・ヴァーゲルス	雪の夜	1883年頃	油彩・キャンヴァス	105×154
34	ギョーム・ヴァーゲルス	黄昏の池	1888年頃	油彩・キャンヴァス	102×146
35	アンナ・ボック	ブルターニュの海岸	1901年頃	油彩・キャンヴァス	108×146.5
36	ジェームズ・アンソール	バラの花	1892年	油彩・板	32.5×40
37	ジェームズ・アンソール	キャベツ	1880年	油彩・キャンヴァス	67.5×79.5
38	ジェームズ・アンソール	青衣の婦人	1881年	油彩・キャンヴァス	68.5×58.5
39	ペリクレス・パンタヴィ	ブランケンベルへの浜辺	不詳	油彩・キャンヴァス	75×101
40	アルフレッド・ウィリアム・フィンチ	海	1880年	油彩・キャンヴァス	55.5×100.5
41	フランツ・シャルレ	チュイルリーのテラス	1924年	油彩・キャンヴァス	64×90
【第4章 ベルギーにおける新印象派】					
42	アルフレッド・ウィリアム・フィンチ	海岸風景	1892年頃	油彩・キャンヴァス	35×55
43	アンリ・ヴァン・デ・ヴェルデ	村の生活Ⅶ、繕い物をする少女	1890年	油彩・キャンヴァス	78×101.5
44	ジョルジュ・モレン	二人の少女	1907年	油彩・キャンヴァス	55.5×63.5
45	テオフィル・ファン・レイセルベルヘ	シャルル・モース夫人の肖像	1890年	油彩・キャンヴァス	56×47
46	テオフィル・ファン・レイセルベルヘ	散歩	1901年	油彩・キャンヴァス	97×130
【第5章 光と親密さ】					
47	ジョルジュ・レメン	子ども部屋	1900年以前	鉛筆、油彩・紙	23.1×31
48	ジョルジュ・レメン	裁縫	不詳	油彩・紙	23×30
49	アンリ・ル・シダネル	黄昏の白い庭	1912年	油彩・キャンヴァス	77×119
50	ピエール・ボナール	ミシア・ゴドブスカとタデ・ナタンソン	1902年	油彩・キャンヴァス	133×86.5
51	ピエール・ボナール	逆光の中の裸婦	1908年頃	油彩・キャンヴァス	124.5×109
52	イジドール・ヴェルヘイデン	昼食	1905年頃	油彩・キャンヴァス	101.5×127
53	ジャン・ヴァンデン・エコー	庭にて	1906年	油彩・キャンヴァス	159.5×147
54	ジェニー・モンティニー	冬の下校	不詳	油彩・キャンヴァス	82×102
55	アンリ・エヴェヌプール	子どもの習作／床に座って遊ぶ子ども	1896年	油彩・キャンヴァス	73.5×60

No.	作 家 名	作 品 名	制作年	技法・材質	寸 法
56	アンリ・エヴェヌブール	ルイ＝シャルル・クレスパンの肖像	1895年	油彩・キャンヴァス	82×62.5
57	アドリアン＝ジョゼフ・ヘイマンス	冬の白樺	1876年	油彩・キャンヴァス	100×149
58	アルベルト・パールツン	ゲントの夜	1903年	油彩・キャンヴァス	151×155
59	エミール・クラウス	雪の中の平底船	1916年	油彩・キャンヴァス	45.5×61
60	エミール・クラウス	ロンドン、テムズ川の実習船	1916年	油彩・キャンヴァス	71.5×91.5
61	エミール・クラウス	ロンドンの眺め、冬	1916年	油彩・キャンヴァス	81.5×91.5
62	エミール・クラウス	ロンドンの眺め、ウォータールー・ブリッジ	1916年	油彩・キャンヴァス	43.5×48.5
63	ジョルジュ・ボイス	夜明けの運河を進む平底船	不詳	油彩・キャンヴァス	72.5×91
64	ジョルジュ・モレン	三月の風景	1922年	油彩・キャンヴァス	80.5×90.5
【第6章 フォーヴィスム】					
65	ジャン・ヴァンデン・エコー	レモン	1913	油彩・キャンヴァス	66.5×81
66	リク・ワウテルス	造花	1913	油彩・キャンヴァス	100×95
67	リク・ワウテルス	鏡をみる青衣の婦人	1914	油彩・キャンヴァス	121×123
68	ヴィレム・パーレルス	ピアノのある室内	1911	油彩・キャンヴァス	60×80
69	アンリ・マティス	静物、ヴェニスの赤い部屋	1946	油彩・キャンヴァス	92×65

●「挑戦！ 頭脳パズルボックス」

会 期	平成21年10月10日（土）～11月8日（日） 30日間（休館日なし）
入館者数	9,071人（一般3,695人、学生・高校生259人、小・中学生3,472人、幼児922人）
会 場	鳥取県立博物館 第1特別展示室
主 催	鳥取県立博物館
協 力	鳥取大学地域学部数学教育学研究室
協 賛	株式会社吉備総合電設、三和商事株式会社、株式会社モリックスジャパン
後 援	朝日新聞鳥取総局、毎日新聞鳥取支局、読売新聞大阪本社、産経新聞鳥取支局、 新日本海新聞社、山陰中央新報社、中国新聞鳥取支局、日本経済新聞、NHK鳥 取放送局、日本海テレビ、B S S山陰放送、山陰中央テレビ、テレビ朝日鳥取支 局、時事通信社鳥取支局、共同通信社鳥取支局、エフエム山陰、日本海ケーブル ネットワーク
入 館 料	一般 500円（団体 300円）・学生以下無料
内 容	抽象的で難しいというイメージの「数学・算数」について、子どもから大人まで 楽しく学べるよう、約20種類のおもしろい体験型展示物を使って展示紹介した。 数学という広範囲の内容の中から、確率、トポロジー、コンピュータ、建築など 基本的なテーマを取り上げ、子どもから大人まで、年齢を問わず楽しみながら学 べる展覧会とした。また、博学連携として、鳥取大学地域学部数学教育学研究室 の企画・製作による、低年齢（3歳児～）でも楽しみながら算数に親しむことが できる15点の展示アイテムによる体験コーナー『算数の宝箱』も展示した。

展 示

- I. 形にひそむ法則：不思議なレール／アーチの橋／楕円のビリヤード／お皿での当て
- II. 未来を読む数学：サイコロの目を読む／パスカルの三角形
- III. コンピュータの世界：十進法から二進法へ／フリップフロップの役割／「0」と「1」
だけで数えてみよう／あなたの年齢は？
- IV. 引力の魅力：ニュートンのクレドール／人工重力実験／ボールを投げてみよう
- V. ねじれの数学：7つの橋と8つの橋／メビウスの輪／つながった手錠

VI. 並びの魔力：ブロックの塔／塗りつぶせない正方形

VII. パズルの世界：四面体パズル／ブラーマの塔／立体4目並べ

〈関連行事〉

(1) 講演会「21世紀を羽ばたくための学習法」

期 日 10月18日（日） 14：00～15：30
会 場 講堂
講 師 ピーター・フランク氏
参加人数 275人

(2) 体験コーナー「算数の宝箱」

期 日 会期中毎日
会 場 企画展会場（要入場料）
参加人数 入場者数と同数

●「シリーズ 鳥取の表現者 File. 01 前田昭博 白瓷の造形」

会 期 平成21年11月21日（土）～12月20日（日）30日間（休館日なし）
入館者数 3,586人
会 場 鳥取県立博物館 第2特別展示室
主 催 鳥取県立博物館
協 賛 株式会社吉備総合電設、三和商事株式会社、株式会社モリックスジャパン
入 館 料 一般 600円（前売り・団体 400円）
内 容 「シリーズ 鳥取の表現者」は、鳥取にゆかりのある、現在活躍中の作家や近年亡くなったが活発な制作をしていた作家を、年齢やジャンルに制限を設けることなく広い視野を持ってとりあげ、紹介するシリーズ企画展である。平成21年度は、「前田昭博 白瓷の造形」と題し、近年その作品が国際巡回展にも出品されている、現代日本を代表する陶芸家のひとりとして活躍する前田昭博（まえた・あきひろ 1954年～）の仕事を紹介した。展示構成は、前田のこれまでの仕事を、富本憲吉らの白磁器に魅せられた初期の仕事から覚醒期、そして近年の試みまで、小品を含めた約100点の磁器作品によりたどるかたちをとった。

〈関連行事〉

(1) 「アーティストトーク 前田昭博氏」

期 日 11月21日（土） 14：00～15：00
会 場 鳥取県立博物館第2展示室
講 師 前田 昭博氏
参加人数 65人

(2) 「トークセッション 前田昭博氏×金子賢治氏」

期 日 11月28日（土） 14：00～15：30

会 場 鳥取県立博物館第2展示室および講堂

講 師 前田 昭博氏、金子 賢治氏（東京国立近代美術館工芸課長）

参加人数 85人

(3) 担当学芸員による展示解説

期 日 12月5日（土）・12日（土） 14：00～15：00

会 場 鳥取県立博物館第2展示室

参加人数 計52人

〈出品目録〉

作品名	作品名（読み方）	制作年	材質・技法	寸法（単位はcm、h=高さ、w=幅、d=奥行、D=径）	所蔵先
I 白い器胎との出会い					
1 白瓷壺	はくじつぼ	1977年	磁器	h24.9 D25.3	個人蔵
2 白瓷面取壺	はくじめんとりつぼ	1978年	磁器	h20.2 D28.8	個人蔵
3 白瓷面取壺	はくじめんとりつぼ	1979年	磁器	h39.0 D30.0	個人蔵
4 白瓷壺	はくじつぼ	1979年	磁器	h30.5 D18.8	個人蔵
5 白瓷面取壺	はくじめんとりつぼ	1980年	磁器	h30.3 w18.5 d18.2	太中マス子氏蔵
6 白瓷扇面取壺	はくじおうぎめんとりつぼ	1979年	磁器	h43.4 D34.6	個人蔵
II 〈かたち〉と質感の追究					
7 青白瓷鑄文壺	せいはくじしのぎもんつぼ	1983年	磁器	h35.3 D34.5	野口節夫氏蔵
8 白瓷面取壺	はくじめんとりつぼ	1989年	磁器	h22.0 D20.5	個人蔵
9 白瓷面取壺	はくじめんとりつぼ	1985年	磁器	h42.6 D16.4	個人蔵
10 白瓷扇面取壺	はくじおうぎめんとりつぼ	1985年	磁器	h40.8 D33.7	太田享氏蔵
11 白瓷面取壺	はくじめんとりつぼ	1987年	磁器	h39.8 D35.2	株式会社パレスホテル
12 白瓷壺	はくじつぼ	1988年	磁器	h24.9 D31.3	個人蔵
13 白瓷刻文扁壺	はくじこくもんへんこ	1988年	磁器	h35.2 w38.0 d36.3	濱野和子氏蔵
III 進化する立体造形としての器へ					
14 白瓷面取壺	はくじめんとりつぼ	1991年	磁器	h34.8 D31.2	現代工芸・遊蔵
15 白瓷捻面取壺	はくじひねりめんとりつぼ	1995年	磁器	h39.0 D18.5	個人蔵
16 白瓷面取壺	はくじめんとりつぼ	1991年	磁器	h38.1 D35.3	鳥取県立博物館
17 白瓷扇面取壺	はくじおうぎめんとりつぼ	1998年	磁器	h42.3 D33.2	MOA美術館
18 白瓷捻壺	はくじひねりつぼ	1997年	磁器	h45.4 D29.7	殿村武久氏蔵
19 白瓷捻面取壺	はくじひねりめんとりつぼ	1999年	磁器	h39.2 D31.7	東広島市立美術館
20 白瓷面取壺	はくじめんとりつぼ	1996年	磁器	h43.0 D31.5	東京国立近代美術館
21 白瓷捻面取壺	はくじひねりめんとりつぼ	2000年	磁器	h40.0 D35.0	岐阜県現代陶芸美術館
22 白瓷面取壺	はくじめんとりつぼ	2000年	磁器	h38.6 D37.0	文化庁
23 白瓷壺	はくじつぼ	2001年	磁器	h36.5 D37.6	個人蔵
24 白瓷面取壺	はくじめんとりつぼ	2002年	磁器	h39.8 D28.2	赤井重範氏蔵
25 白瓷捻壺	はくじひねりつぼ	2003年	磁器	h31.5 D29.1	田部美術館
26 白瓷面取壺	はくじめんとりつぼ	2005年	磁器	h39.8 D29.5	個人蔵
27 白瓷面取鉢	はくじめんとりばち	2003年	磁器	h16.8 D57.4	鳥取県立博物館
28 白瓷捻扁壺	はくじひねりへんこ	2004年	磁器	h28.5 w27.2 d26.2	個人蔵
29 白瓷面取壺	はくじめんとりつぼ	2005年	磁器	h42.7 D29.6	個人蔵
30 青白瓷鑄蓋物	せいはくじしのぎふたもの	1991年	磁器	h18.2 D27.7	鳥取県立博物館
31 白瓷鑄文蓋物	はくじしのぎもんふたもの	1985年	磁器	h9.2 D23.6	田部美術館
32 白瓷刻文蓋物	はくじこくもんふたもの	1993年	磁器	h18.2 D31.5	個人蔵
33 白瓷捻蓋付壺	はくじひねりふたつきつぼ	2009年	磁器	h19.6 D24.1	個人蔵
34 白瓷面取蓋付壺	はくじめんとりふたつきつぼ	2009年	磁器	h19.3 D23.2	湯浅法最氏蔵
35 白瓷面取鉢	はくじめんとりばち	1985年	磁器	h13.0 D45.0	個人蔵
36 白瓷刻文皿	はくじこくもんざら	1988年	磁器	h5.0 D48.5	上村辰雄氏蔵
37 青白瓷鑄鉢	せいはくじしのぎばち	1999年	磁器	h15.3 D50.1	個人蔵
38 青白瓷鑄鉢	せいはくじしのぎばち	1990年	磁器	h11.2 D50.0	個人蔵
39 白瓷四方壺	はくじしほうつぼ	1993年	磁器	h23.3 D22.7	個人蔵